

# 広島バス29号線の本格運行（案）について

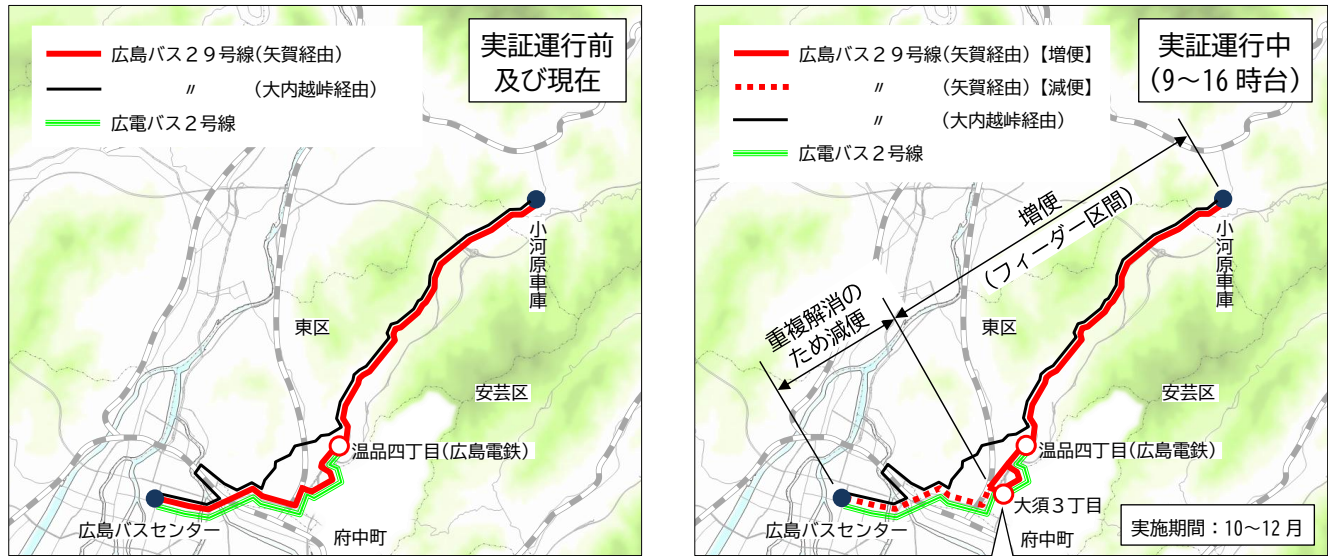
## 1 主旨

広島バス29号線と広電バス2号線は、温品四丁目～広島バスセンター間で路線が重複しており非効率となっていることから、重複の解消による効率化とダイヤ拡充の効果検証などを目的に、令和5年度、令和6年度の2か年をかけて実証運行に取り組んできました。

この度、これまでの結果を踏まえて本格運行に移行するに当たり、その内容を説明するものです。

## 2 昨年度の実証運行の結果（一昨年度の結果は別紙参照）

〔運行ルート図〕



## 3 本格運行（案）

### (1) 運行概要

昨年度の実証運行の内容に更なる利用促進策を講じ、次のとおり本格運行に移行します。

運行事業者	広島バス
対象路線	29号線（矢賀経由）
運行開始日	令和8年3月11日（水）（予定）
時間帯	朝夕ピーク時を除く9時台～16時台
ルート	令和6年度の実証運行と同一
昨年度からの主な変更点	イオンモール広島府中へ乗り入れる便数を、1便から4便に増便

〔小河原車庫発のダイヤ（オフピーク時のみを記載）〕

R5実証運行前		R5実証運行		R6実証運行		本格運行（案）	
時	分	時	分	時	分	時	分
9	36	9	48	9	36	9	36
10	36	10	48	10	36	10	36
11	37	11	50	11	36	11	36
12		12	48	12	28	12	27
13		13	48	13	28	13	27
14		14	38	14	37	14	27
15		15	38	15	37	15	27

### (2) 運行頻度の考え方

当該路線は、矢賀経由と大内越峠経由で構成されていますが、このうち、矢賀経由はデルタ周辺部と郊外部を結ぶ「枝線」であることや、昨年度の利用実績及び利用者の声などから、概ね60分間隔での運行が適正と考えます。

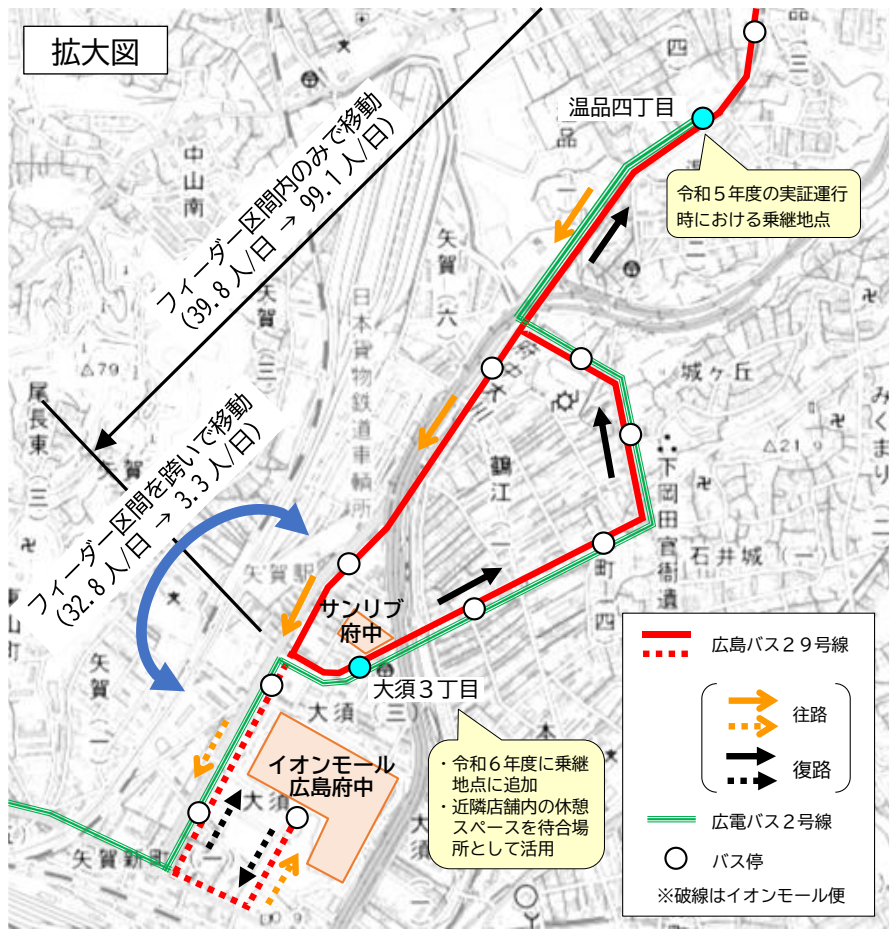
## 4 本格運行後のモニタリングについて

本格運行後も、利用者数や収支、利用者の声などを継続的にモニタリングし、必要に応じて運行計画の見直しを行うとともに、モニタリング結果等は本分科会に報告します。

## 5 今後の予定

令和8年2月下旬 沿線町内会等への周知  
3月11日～ 本格運行開始

拡大図



### 〔概要〕

- 令和5年度の実証運行の結果を踏まえた利便性向上策等（乗継地点の変更、待合環境の改善、イオンモールへの新規乗り入れなど）が利用に与える影響を検証

### 〔運行結果：R6.9とR6.10～12の平均を比較〕

- フィードバックの利用者数は大きく増加
- フィードバックを跨ぐ利用者数は大きく減少
- 2社を合わせた総利用者数は微増
- 広島バスは赤字が1割拡大、広島電鉄は黒字が微減

### 〔利用者の声〕

- イオンモールへの乗入れで便利になったが、もう少し便数を増やして欲しい
- 1時間に1本あると安心するし、商業施設に待合室があるので快適だった
- 乗換が不要になり、前年度よりも良い

### 〔まとめ〕

- フィードバックの延伸により乗継利用者数が大きく減少するとともに、増便により利用者数が増加
- イオンモールへの乗り入れが好評
- 採算性の向上が今後の課題